

ふるさと奥尻通信

平成28年3月31日
奥尻町教育委員会発行
事務局：01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

巻頭言

昭和39年当時、国鉄江差線を経由して定期船で奥尻へ渡るルートがあった。奥尻村(当時)が車両を購入して国鉄に運行を委託した「準急おくしり」である。「ディスカバー・ジャパン」以前の話。

特集 北海道新幹線開業



3月26日に北海道新幹線の新青森駅—新函館北斗駅間(148.8 km)が開業しました。平成17年(2005)の着工から11年余り、ようやく青函トンネル(全長:53.85km、海底部:23.30km)を新幹線が駆け抜けるという歴史的な日となりました。そもそも、青函トンネルの発想は大正時代からあり、終戦直後の地質調査を初め、水面下での動きはあったようです。しかし、本格的な計画として浮上するきっかけは、昭和29年(1954)の洞爺丸台風(台風15号)による、青函連絡船沈没事故でした。1400名以上の犠牲者を出した、この戦後最大、最悪の貨客船事故の教訓は、北海道と本州間での安定した貨客輸送を求める声を後押しし、計画が現実味を帯びました。昭和36年(1961)建設開始、同38年北海道福島町吉岡にてトンネル工事着工式、翌39年掘削開始、同46年本工事着手と進みますが、途中、坑内の落盤、異常出水などで34名の犠牲者を出す難工事となりました。同60年、本抗貫通、同63年3月13日に津軽海峡線が開業しました。



開業当日 新村卓実 奥尻町長



木古内—江差—奥尻と乗り継いでいらっしやいませ！ 木古内駅にて

鉄路のない奥尻島内でもその経済効果に期待して開業に沸いております。開業当日まで、檜山管内の各町村のみなさんがネット上でカウントダウンを行いましたので、その喜びの表情をお届けします。また、奥尻町では開業に合わせて、木古内駅と新函館北斗駅前での町の特産品を集めて販売し、ゆるキャラの「うにまる」も参加して、場を盛り上げました。

ところで、開業当日嬉しいニュースがありました。26日の夕方、奥尻のレンタカー屋さんにて一人の男性が訪れたのですが、なんと東京始発の新幹線に乗ってやってきた方で、木古内駅で下車して江差を経由し、フェリーで島に渡ってきたそうです。新幹線利用のお客様第一号となりました。東京より9時間かけて到着したことになりますので、飛行機乗り継ぎより安くなるとは言え、よくぞいらっしやいました！という思いです。多くはありませんが、早速新幹線開業効果が現れた格好ですので、今後の観光シーズンに期待です。

今後、北海道新幹線は平成43年春に札幌駅まで延伸する計画で開業を目指しており、基本計画上の終点は旭川駅となっています。停車駅は、新八雲—長万部—倶知安—新小樽—札幌を予定しており、「新」が付く駅は既存駅からやや離れた位置に新設される見込みです。新八雲—札幌間は山間部を縦断するコースのため、大部分がトンネルとなるので、工期の長期化が予想されています。今後は、建設工事に先行する文化財調査が進められていくこととなります。



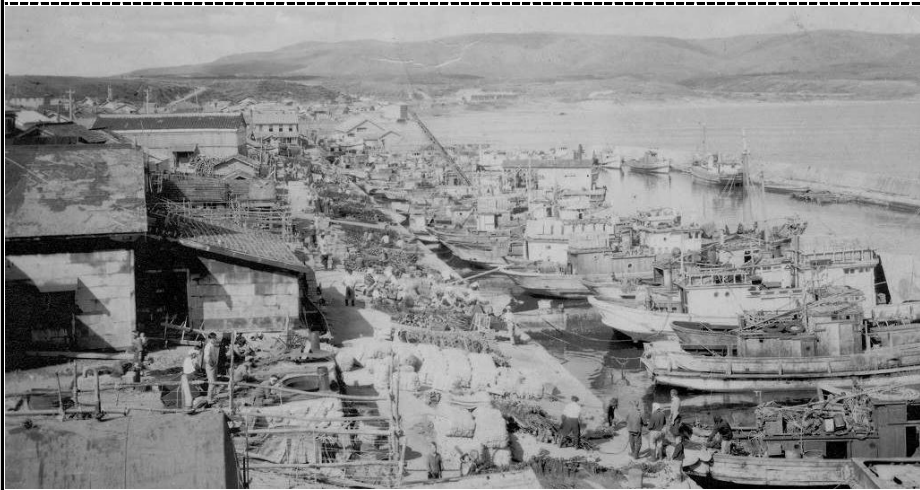
開業当日「うにまる」も木古内駅へ出張

☆カウントダウンの登壇者(抜粋)☆

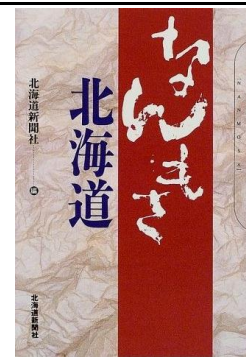
160日前	奥尻小学校	全校児童
120日前	函館ラ・サール高	全校生徒
88日前	神威脇温泉	坪谷さん
80日前	奥尻消防署	宮本さん
72日前	奥尻の漁師	小柳さん
64日前	奥尻商工会	棚橋さん
56日前	桜ヶ丘スキー場	千葉さん
48日前	地域お助け隊	坂本さん
40日前	町役場商工観光係	三浦さん
24日前	岩手大学 大竹さん、松倉さん、佐藤さん	
8日前	奥尻商工会長	明上さん



奥尻小学校のみなさん



昭和20年代の青苗港の様子です。まだ築港時代の船着き場しかありませんので、狭い港内です。荷揚場は斜路になっていて、丸石をオモリに取り付けた漁網が所せましと置かれています。写真左手手前には煙突の付いたニシン釜が二基据えられ、中央には出荷する海産物を詰めたと思われる俵物(島の名産乾鮑かスルメ?)が山積みになっています。まさに一昔前(二昔?)の漁村の風景です。港内にはAM2-233と登録番号を掲げた青森県所属の漁船が写っています。奥尻の船もすべて木造船で、10トン未満の小型船ばかりです。



学芸員オススメの一冊をご紹介します。本は海洋研修センター図書室で借りられます。

なんもさ北海道 北海道新聞社

A「ゆるぐなかったべえ？」
(大変だったでしょう?)
B「なんもだ」
(いや、たいしたことないよ)
この場合、実際にはBは大変な思いをしているのですが、そのようなそぶりはおくびにも出さずに、相手に心配をかけないように配慮しています。「なんもさ」と返す言葉の裏には道産子の忍耐力が隠れています。

月刊 奥尻のつり 3月号

雪解けも進みまして、海のごりも出てきました。これが収まってくると、海は透明度を取り戻し、どんどん澄んだ海面となっていきます。サクラマスは沖へ出でたり、岸寄りしたりと安定せず、あまり釣果は聞かれません。一方、今月の初め頃より檜山近海のヤリイカ漁が盛んで、ある日は300箱近く捕った船もあつつか。この日は荷揚げが少なく、一箱3000円弱の高値がついたそうで、浜は賑わいました。島のアングラもマスをあきらめて、イカ釣りに移った人もたくさんいて、赤石港では10人以上がズラリと並び、盛んに竿を振っていました。ホッケやカレイ漁が目前にせまり、港ではホッケ網の準備や船の整備が行われていました。先日、平成21年に数万匹のホッケの大群(ホッケ柱)を捉えた映像が再放送されましたが、まさに圧巻。

昭和奥尻生活詩 新谷清二の烏賊つけ1ヶ月 第7回

釣石尋常小学校高等科二年生 文集「島の子」第八号より
一霧大ン久ら持たれう大に来書こしらと行烏しへ
一艘は分バ遠もつ。た。漁今たいいな母っ賊、困 昼
二はだスのうた霧。もす年人たなかいとてつ兄っ食
艘れ高か方島。が久うるは達。事。にんでしか達た後雨
とていらもは二深遠沖と四がそを働だあまなはな雨
見来。目見霧キいにへ見人來こ考い。のうい雨、が
えた久をえて口の向出越だたへえて俺島しと降島降
次て。遠離な見くでかるし。去。てもはを、なりにつ
回。船近さいえらコっ頃てき去年手遅働しとそるだもて
にたはく。ないンてだ来っ年も紙れくなくとっ行きた
つ。だない長か沖バ出。たと二熊をるさけな力たけた
づんっ。兄っにス発雨の今人石友べ、れるゲリな。
く。だた波はた出をしもだ年だか達なしぼとへしい
んらもコ。た。晴るはのらに。かな俺て

奥尻島内の風景や風物などを紹介するページ
http://www.facebook.com/okushiri.photo/?ref=hl



子どもの顔よりも大きいぞ

タコが特大ホタテを
にた味物でcm六たきて何え上周
展とはの食も。なみかまさ辺三月
示かちたべるあ五穀天た抱しんで三月
し。よめてるcmは然とえたがタ十二
ま穀つかみ大、縦物こ込。大コ二日
すはと、た物茹一のろんすきな早朝
。稲イととでで八ホ、でるなを夕朝
穂マてこしたcmタないとタし朝、
のイもろた貝、テんで、コて、宮
資子硬、。柱横でと、タをい宮
料だく天家がーしも開コ捕た津
室つ、然族八 大いがま三港

新茶之記録(編集後記)
イあ準で春カしすはがもす。
がと備すの、く親やな。二十
泳は万釣、なこしつく別十七
い、端すり野りといて新れの年
で春整でシ球、す。なまい季
くれのつに、相さ、多、会、の、
ば。おも仕開にて、が、の、
ケり掛幕続、て、が、の、
とま掛幕続、て、が、の、
カす。も前、ツ寂島回節間

キトピロ採取はじまる
す面いん尻広ンまにが山雪そ
のが。産くニすは顔の解れ島
で、多が臭の流ク。キを斜けはの
く、特味も通とこと出面がキの
マ、徴がのし呼れビしに進トの
ナ私で少はてばは口て、は、ん
し有すな出いれギがい、で、ロ
を地。く回までヨ自まふ地採第
大も山食りす道ウ生すき肌のが
切あはべまが内ジしが、の、
にり急やせ、でヤて、と、出、
。ま斜す 奥もニい島うた

